

●大会委員会企画テーマセッション(80 分)

「近代組織と時間 ～M.ウェーバーの組織社会学から～」

講演形式

◎佐藤 俊樹（東京大学 大学院総合文化研究科 教授）

井口 暁（追手門学院大学 社会学部 准教授）

島本 実（一橋大学 大学院経営管理研究科 教授）

高尾 義明（東京都立大学 大学院経営学研究科 教授）

[概要]

10 月 18 日(日) 11:00～12:20 C 会場

本セッションではM.ウェーバーの資本主義企業論を手がかりに、組織と時間について考えてみる。経済史では共同出資の *commenda* が規模拡大と効率化のために法人化されたとされるが、ウェーバーはその博士論文で、法人会社は商業の *commenda* ではなく、手工業での「合名会社」(日本のそれではなく *compagna*)に由来するとした。手工業の分業では最終的な製品の出来を各個人の貢献の直和には還元できず、自らの作業に関する意思決定の妥当性も他人のそれに依存せざるをえない。そのような意思決定の相互依存状態はN.ルーマンの組織システム論(決定の再帰的ネットワーク)につながるもので、近代組織の原型の一つにあたるが、時間に関わるいくつかの社会経済的条件と関連して一般化したと考えられる。その検討を通じて、組織と時間の内在的なつながりを明らかにしたい。

[参加者へのメッセージ]

本セッションは、ウェーバー、ルーマンの議論をもとに組織と時間の関係を理論的に検討することを通じて、現代社会において組織をどのようなものとして捉え、記述するのかを問い直す機会を参加者に提供することを目指します。佐藤氏による基調報告、2 名の討論者(島本氏、井口氏)からのコメント、討論者と佐藤氏との質疑、司会(高尾氏)の進行によるフロアを交えたディスカッション、という流れで本セッションは進められます。社会学に基づいた組織研究に関心をもつ研究者のみならず、(近代)組織と何なのか根底的なところから考えてみたいという研究者・実務家の参加を歓迎します。